

# 緑内障について

病気に関連する予防医学と豆知識

緑内障とは、眼圧の変化により視神経が侵されて視野（見える範囲）が狭くなり、視力も低下する病気です。ある疫学調査では、40歳以上の方で20人に1人という結果が出ています。

症状の出方で分けると、急激に症状を発症するもの（急性緑内障発作）、慢性的にゆっくりと進行するものが（慢性緑内障）あります。慢性の場合、非常にゆっくり（何年もかけて）進行し、視野が欠けてくるため、本人が気付いたときには、見える範囲が半分になってしまっていることもしばしばあります。

どうして緑内障はおきてくるのでしょうか？眼の前の部分で血液と同じような役割をするものを、房水と呼びます。房水とは前房の中を満たしているお水のことです。この房水の産生と眼の外へ排出するバランスが崩れ、眼の中にたまりすぎると眼球内の圧が高まり、視神経が障害され、視野が狭くなったり、視力低下をきたします。

そして、一度障害を受けた視神経は、再生することがありません。ではどんな検査をするのでしょうか。1. 視力検査 2. 眼圧 3. 眼底検査（視神経の状態を見るために大切です。障害されてくると視神経乳頭の陥凹が大きくなります。） 4. 視野検査（見える範囲の欠損の程度で、進行具合を見ます）

治療方法には

1. 点眼薬
2. レーザー治療；虹彩に穴をあける場合と房水の出口にレーザーを行うことにより排出を促す場合があります
3. 1,2の方法でコントロールが付かない場合は手術になります。防水の流れを良くする為の通路の改修やバイパスを作ります。緑内障にて失われた視野は回復してこないのです。ですから、早期発見早期治療が大切になってきます。

